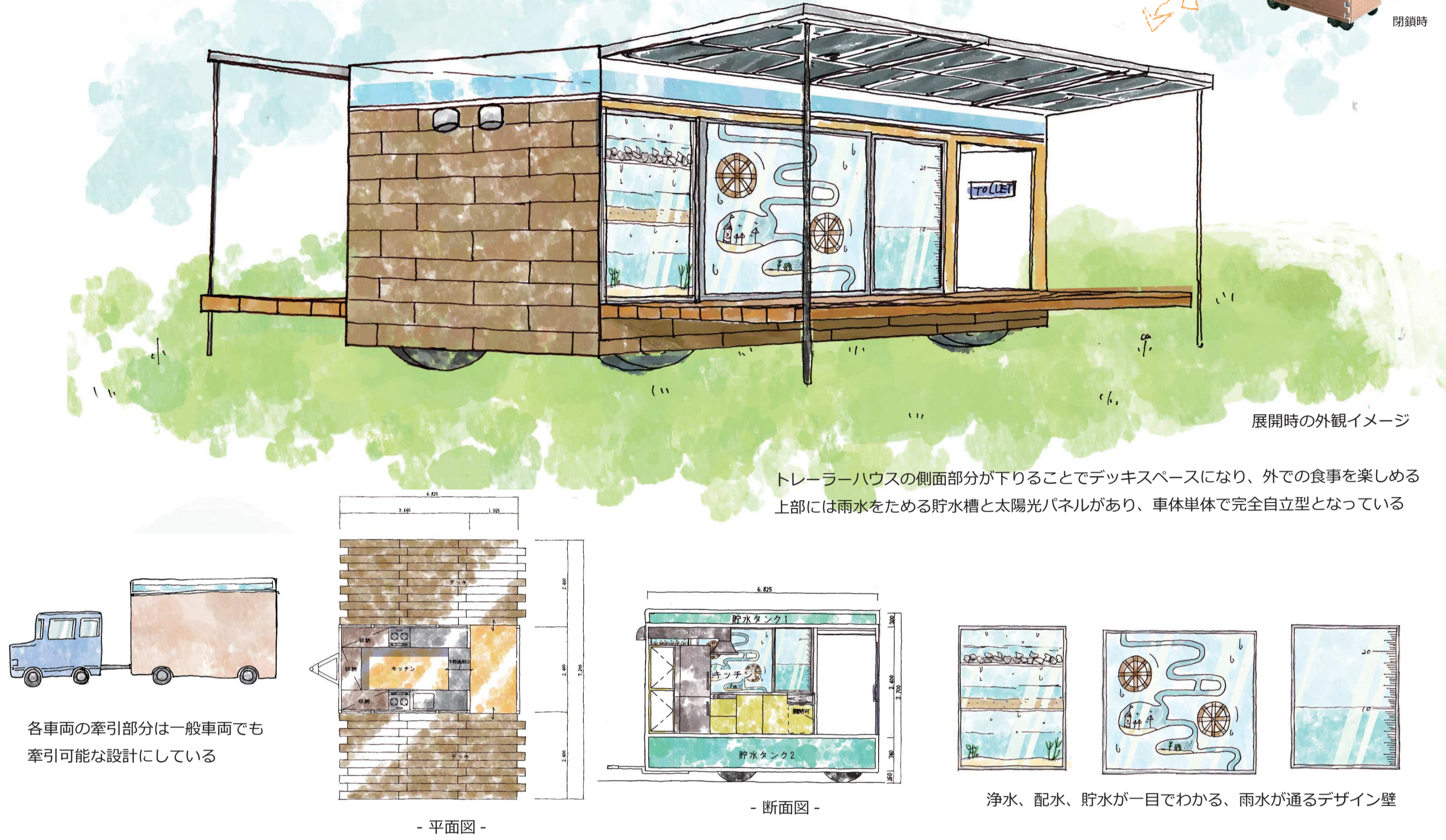
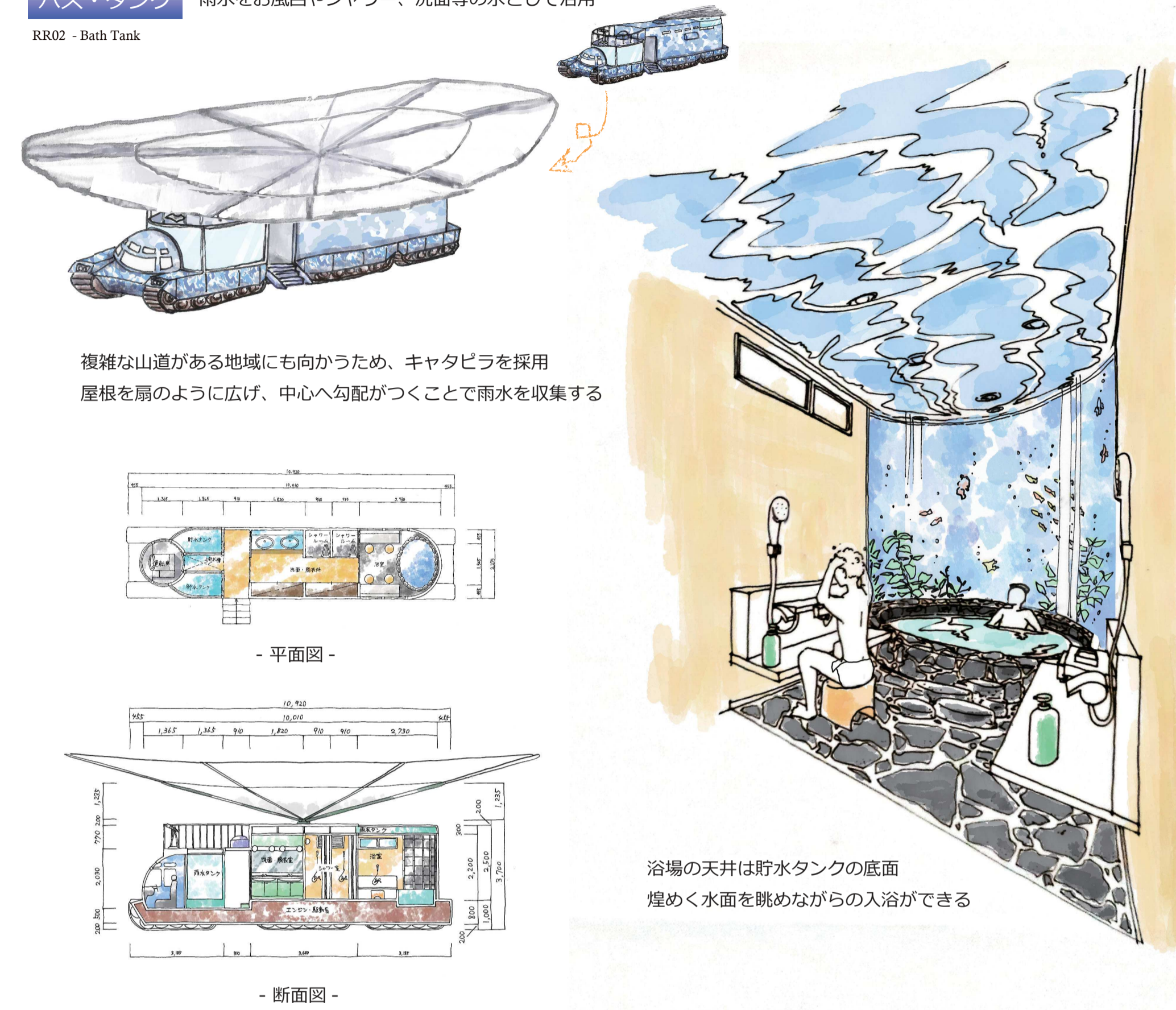


コンセプト 被災地において雨水によって水使用を支援するほか、平時においてはイベント等で雨水を利用し楽しむことができる、5タイプの雨水活用車輛を考案
私たちが提案する「Rainy Rescue」は雨水の恩恵を再認識するとともに有効活用し、自然との共生を改めて考え直す時期にある社会への貢献と啓発が可能

1号
キッチンカー 雨水を食洗器で利用
RR 01 - Kitchen Car
雨水が使用されている所を見に来る工夫もある



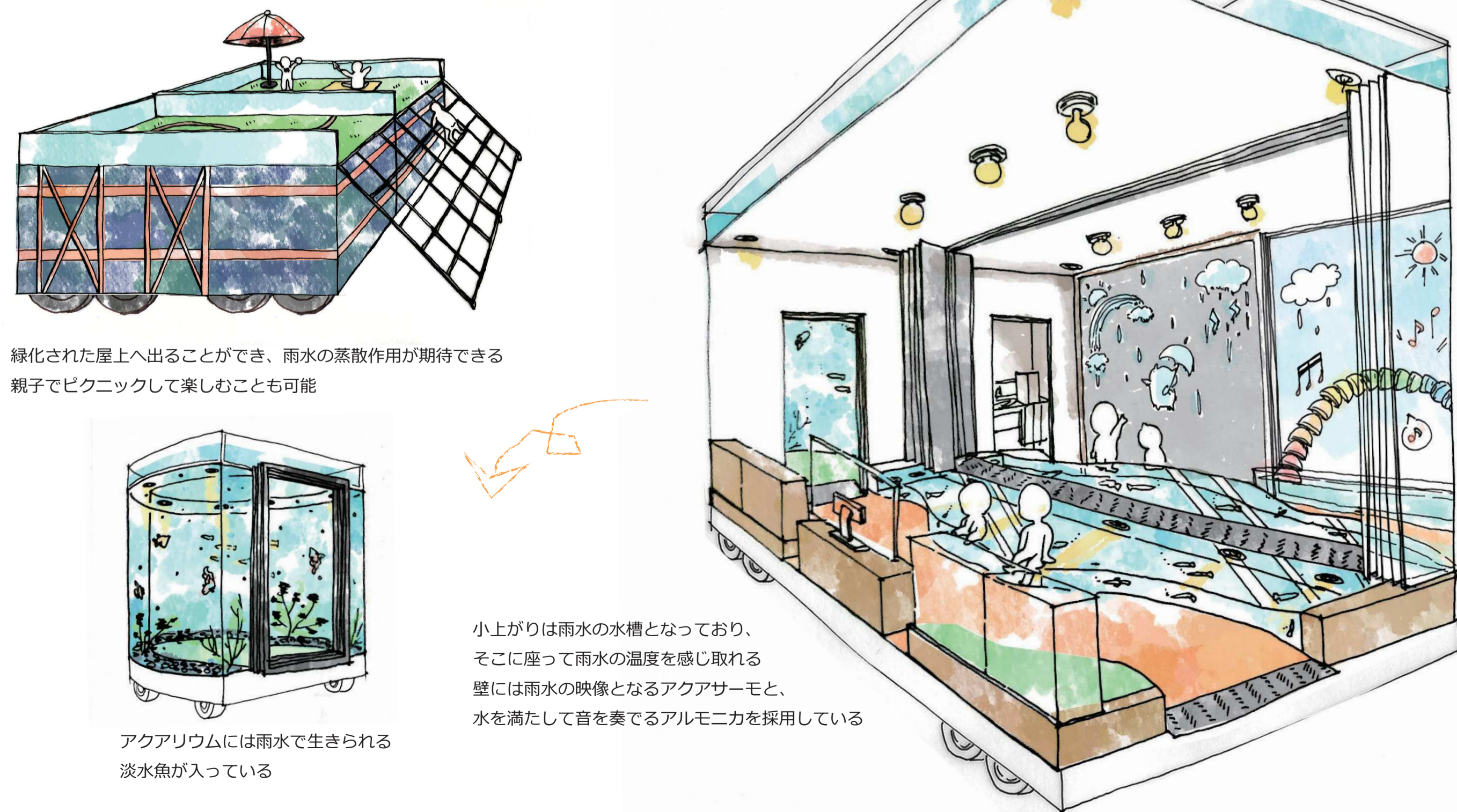
2号
バス・タンク 雨水をお風呂やシャワー、洗面等の水として活用
RR02 - Bath Tank



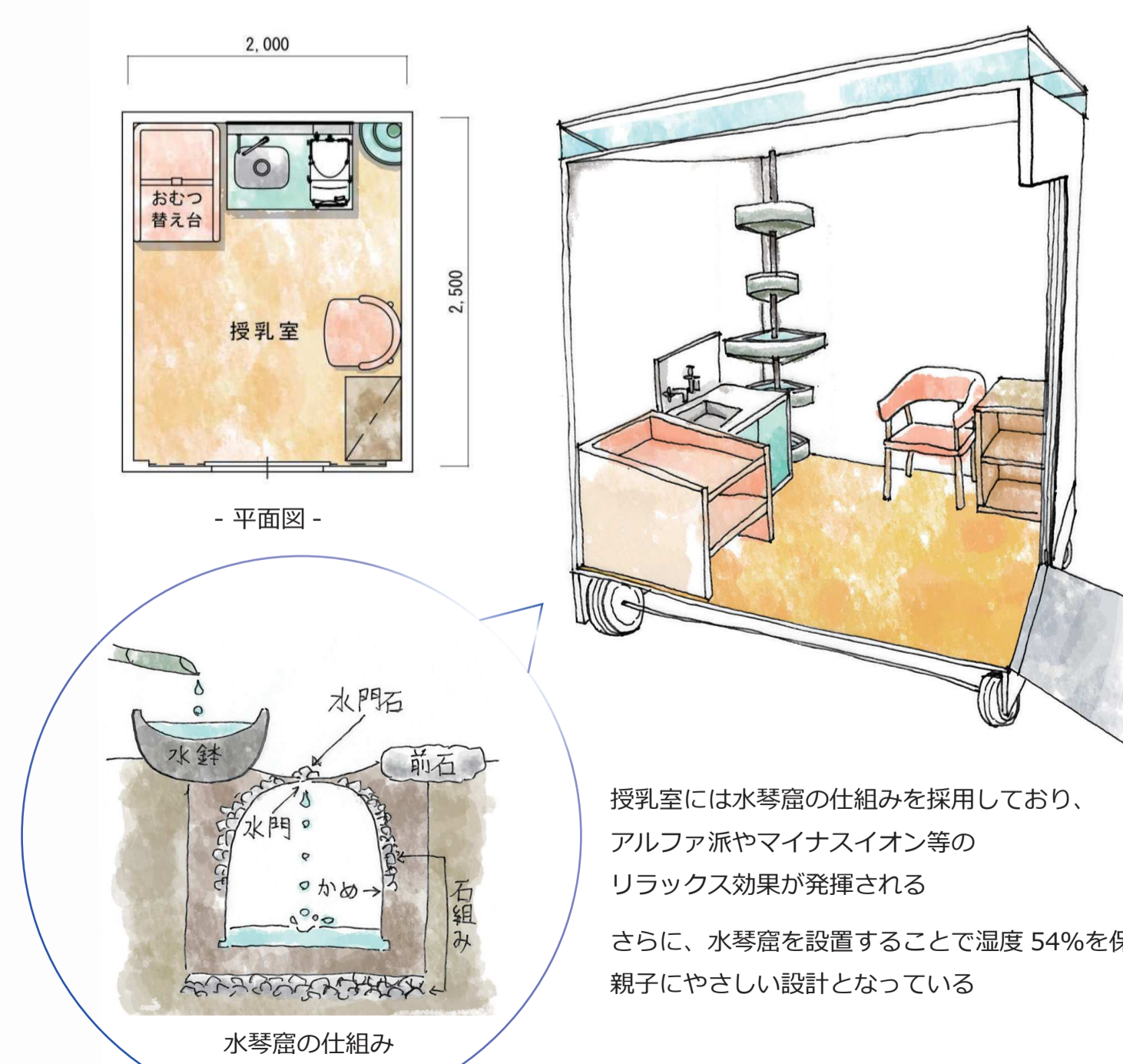
3号
ランドリーカー
RR 03 - Laundry Car
被災地の避難所で生活する人たちの洗濯を支援するために設計
「バス・タンク」から出る排水を再利用し、連結運用が可能



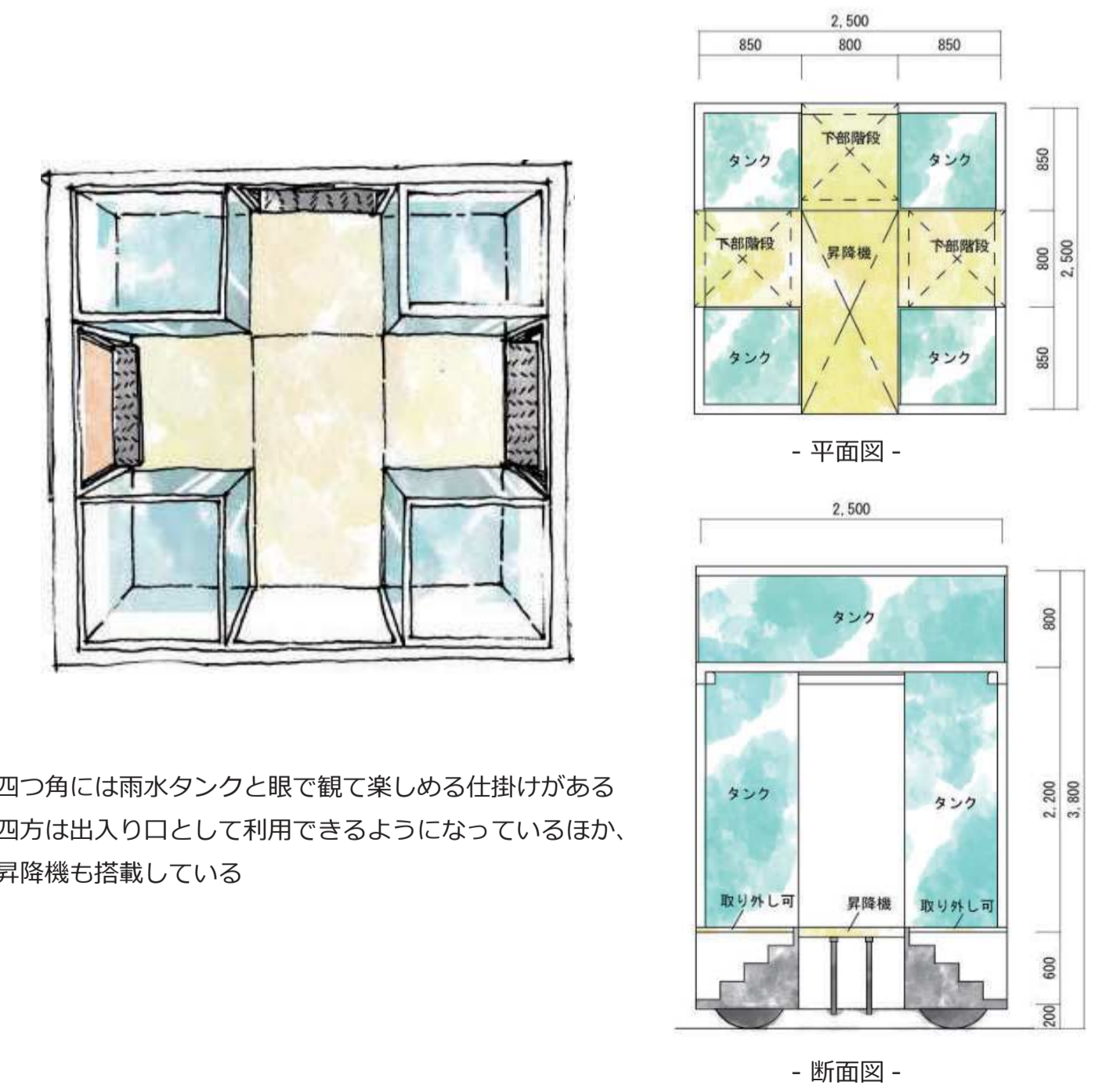
4号
プレイングカー 被災地において、心のケアを必要とする子供たちを対象として癒しの場を提供
RR 04 - Playing Car



5号
ベビーカー 被災地の避難所で生活する乳児をもつ家族を対象に支援する目的で設計
RR 05 - Baby Car
母親だけでなく、父親や祖父母でも利用しやすいように個室となっている



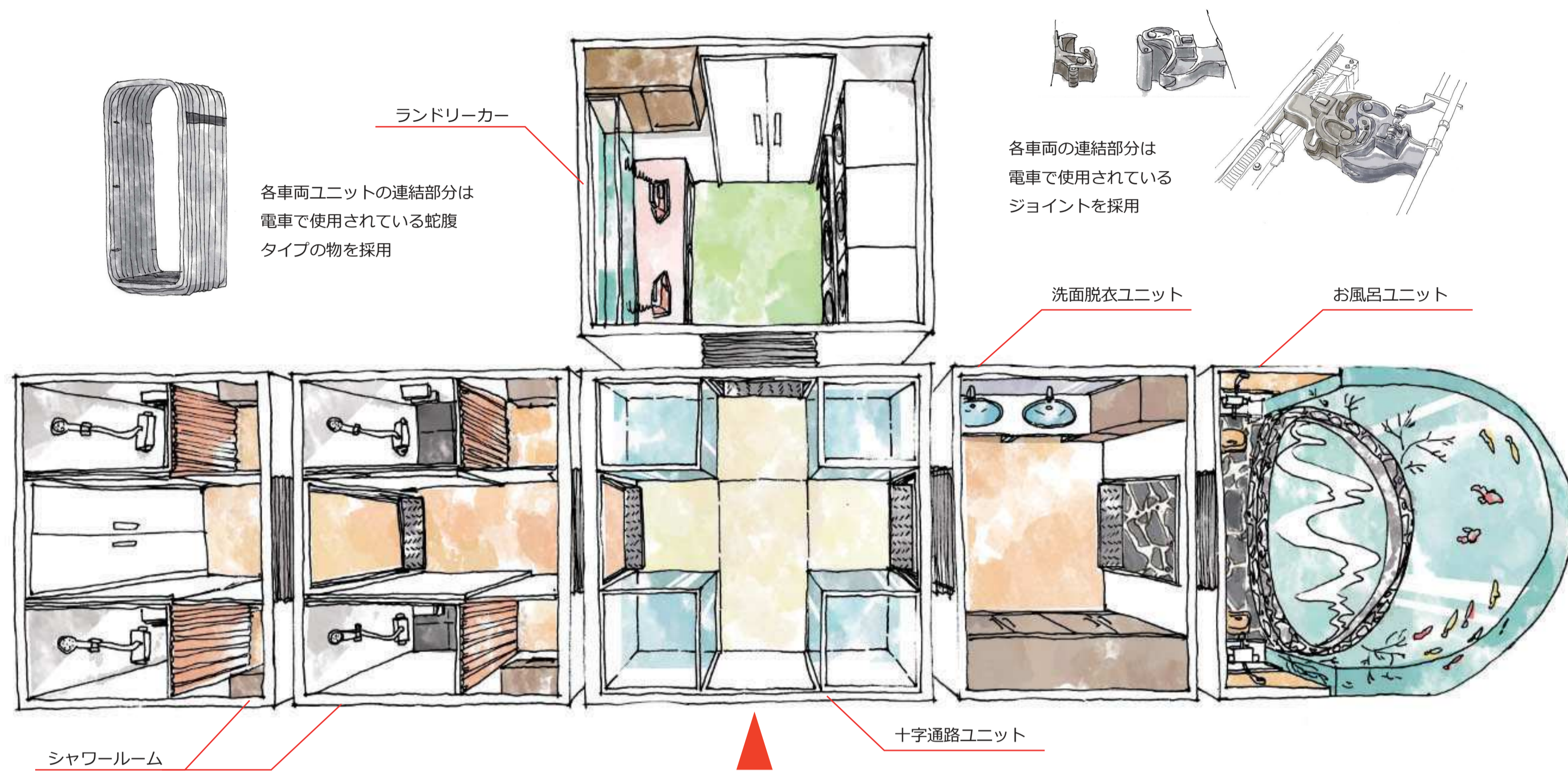
連結補助ユニット
十字ユニット 各車両のユニットに組み込むことにより各ユニットの結合を
RR 00 - Cross Unit
容易にし規模や敷地形状に応じた運用が可能



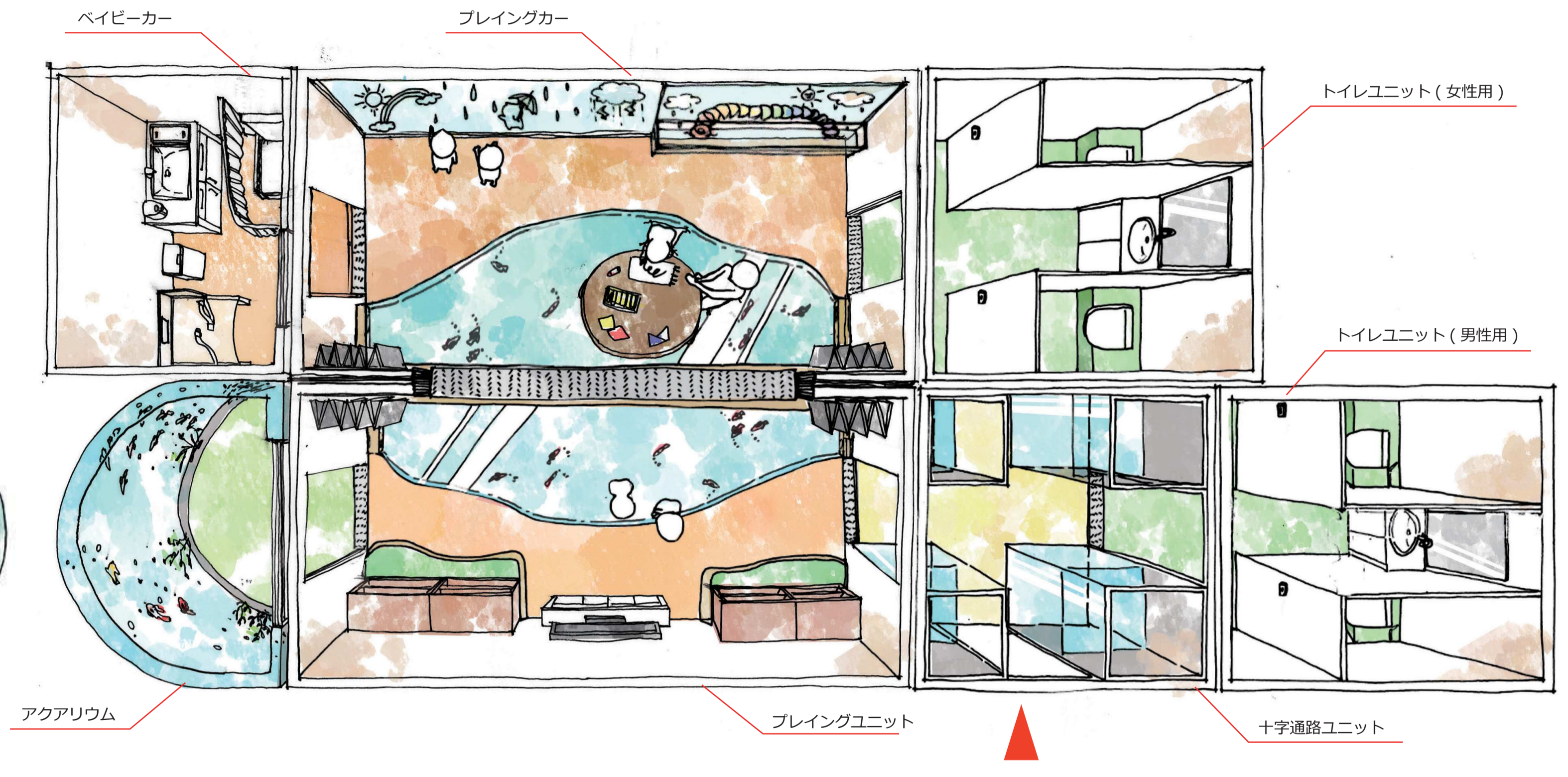
Rainy Rescue ~ リスクに備える雨水活用 ~

連結運用プラン

各ユニットは分離することで他のユニットと組み合わせて運用することが可能



洗身を目的とした水回りの車輻を中心とした連結運用を想定
お風呂カーの排水をランドリーカーへ配水し、洗濯用水として再利用ができる
さらに、十字ユニットを使うことで脱衣室と洗濯室の動線を考慮し、自由に並べ変えての運用が可能

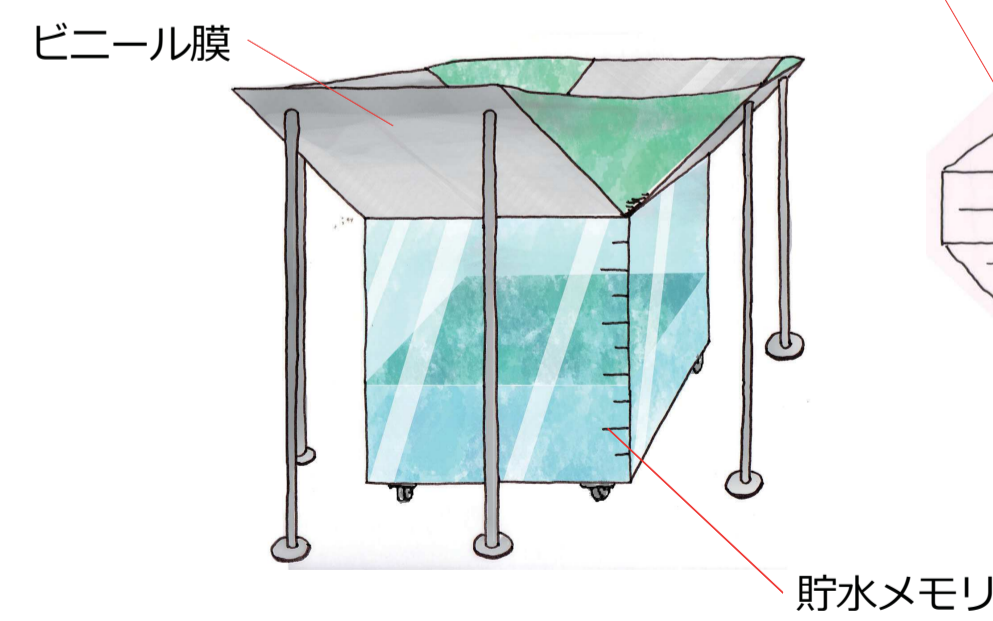


プレイングユニットを中心に、親子の団らんの場となるような連結運用を想定
乳児と幼児をもつ家族を考慮し、プレイングユニットと授乳室ユニットとを隣接して運用
子ども親も安心して楽しい時間が過ごせる場所となる

雨水収集ポッド

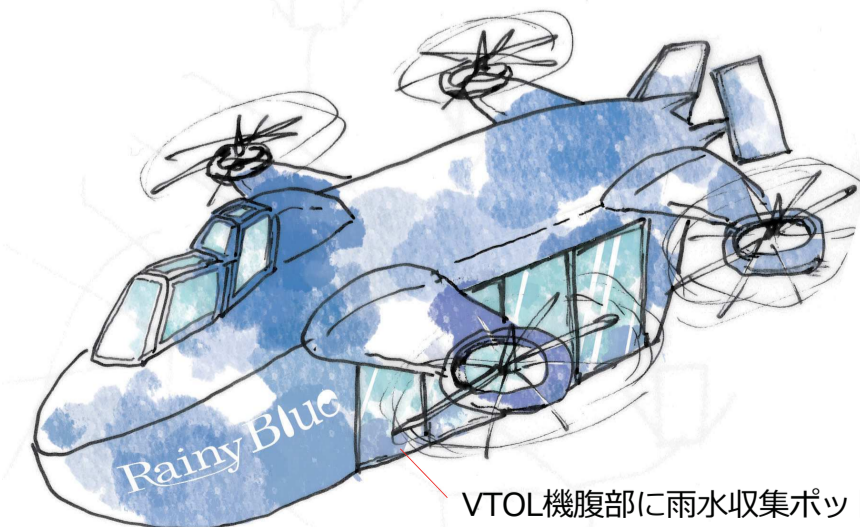
車両に搭載された雨水収集設備以外にも雨水を効率よく収集するため、個体数と収集面積を増すことを目的に設置する

収集方法は箱型の雨水収集ポッドの側壁が開き、開いた側壁と側壁間にあるビニール膜をつたい落ちてきた雨水が中央の箱型の貯水槽に入る仕組みである



雨水の貯水量を観測できるメモリの他に、模様や絵が浮かき出る仕掛けもある
また、雨水収集ポッドは降水地域に普段から設置しておくことで、雨水を蓄積しておくことができるという利点がある

開いた側面のバランスを保つ各脚部は折り畳み式となっており、ポッド側面に収納が可能



VTOL機腹部に雨水収集ポッドと各ユニットを搭載

被災地へ至る道路は寸断されている可能性があるため、現地に雨水収集ポッドを運ぶ手段として空輸を想定

この場合、垂直離着陸できるようなVTOL機が候補となる

被災地での運用配置計画図

配置計画地の対象として、実際に避難所に指定されている愛媛県愛南町立一本松小学校の敷地での運用をシミュレーション



運営・管理について

平時にイベント等で維持管理できる程の収益を得て、雨水との関わり方を啓発し、被災地や渇水地に赴き支援活動もできる組織としてNPO法人を想定

Rainy Rescueの啓発活動と貢献

平時にイベント等で雨水を楽しんだり、水資源について考える啓発活動を行ったりする一方、被災地のように水の使用が困難な地域に赴き雨水で支援する「Rainy Rescue」は、自然との共生を目指すとともにリスクに備えた雨水活用で持続可能な社会環境を実現する